

目的・背景

分娩時の疼痛除去を目的とした無痛分娩は硬膜外麻酔を主体としており、世界的には麻酔科医が行うことが一般的である。しかし日本では、麻酔科医が絶対的に不足しており、産科医が行う施設も多く、過去には死亡症例も報告されている。安全でかつ満足度の高い分娩体制の構築には麻酔科医が行う無痛分娩の体制構築が必須である。本研究は無痛分娩麻酔科医不足による無痛分娩充足率の低下を、改善するために、遠隔診療を用いて安全に、妊婦の満足度を維持することを目的としている。

事業概要

連携する産院で、無痛分娩を希望する妊婦が陣痛発来し、疼痛除去を希望した場合、大学病院から麻酔科医を派遣し、硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を開始する。安全な麻酔導入が行われ、疼痛除去が安定し、患者の呼吸循環状態に問題がないことが確認できたら、麻酔科医は大学へ帰還し、麻酔科医は大学での麻酔業務を行うと同時に、遠隔診療システムを用いた妊婦の定期的な診察を行う。定期的に、患者バイタルの確認、疼痛コントロール・合併症の有無を診察することで安全で満足度の高い無痛分娩が行えるか検討する。分娩終了後、妊婦にアンケートを書いてもらい結果を検討する。

今後の展望

患者満足度や合併症の発生などに問題がなければ、大学病院が中心となり、周囲の基幹病院と協力し、連携する産院を増加させ、麻酔科医の充足していない地域でも安全で満足の高い無痛分娩が施行できる体制を構築していく。

実施主体	岡山大学、三宅医院 ウィーメックス株式会社
実施場所	三宅医院（岡山市南区）
活用技術	IoT
支援事業	

